

# たけのこ

2018  
SEPTEMBER

9

第31号



医療法人 久盛会

秋田緑ヶ丘病院

〒011-0911 秋田市飯島字堀川 84 番地  
TEL (018) 845-2161 FAX (018) 846-6942  
ホームページ <http://www.kyusei.or.jp/>



日本医療機能評価機構  
認定病院



## 理念

友情を図り、「生きる喜び」と「希望」を育み、  
「安全・安心・信頼の医療」を実現します。

## 指針

1. 医療の安全と質の向上に努め、患者さんに信頼される医療を提供します
2. 医療人の育成を図り、医の倫理の高揚に努めます
3. 患者さんの人権と個人の尊厳を守り、親切、丁寧な医療サービスに努めます
4. 社会の変化・医療の進歩に対応できるように自ら研鑽に努めます
5. 医療を通して、地域社会に貢献できるように努めます
6. 精神障がいに対する偏見や誤解の解消に努めます



大規模災害を想定した防災訓練の様子



副診療部長 鈴木 稔

## 「災害派遣精神医療チーム DPATについて」

ことは全国的な猛暑が続いたこともあり、夏の疲れが出やすい時期となっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨今は猛暑だけではなく、秋田県内においても豪雨による被

害が相次いでおります。昨年7月・8月、そして本年5月にも、県内各地において大規模な洪水や氾濫が起こり、多数の浸水被害が生じました。被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

また、本年6月18日には、マグニチュード6.1・最大震度6弱の大阪府北部地震があり、さらに6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心とした記録的豪雨災害があったことは記憶に新しいところです。世界的異常気象なのかもしれません。いつ、どこで、何が起こっても全く不思議ではないご時世かと思われまします。

『災害派遣医療チームDMAT (Disaster Medical Assistance Team: ディー・メッド・アット)』の名は、どこかでお聞きになったことがあるかもしれません。2014年にTBSにおいて、『Dr. DMAT』のタイトルでドラマ化され、DVDとしてもレンタル・販売されているようです。

DMATと大変似た名称なのですが、『DPAT』(Disaster Psychiatric Assistance Team: ディー・パット)というものが存在します。あえて日本語に訳しますと、『災害派遣精神医療チーム』と呼ばれます。

以前は『このころのケアチーム』と呼ばれていましたが、東日本大震災での活動内容を教訓として、東日本大震災以降に、新たにDPATとして制度が発足しました。

DMATの場合は、大規模集団災害の発災直後より被災地内に入り、外傷患者さんや身体疾患患者さんのトリアージ（ふるい分け）、被災地内病院支援、域内搬送、広域搬送等を主な任務としています。

これに対し、DPATも発災直後から被災地内に入り、被災地内精神科医療機関への支援、各避難所への巡回診療、半壊または全壊した精神科医療機関における入院患者さんを安全な場所へと避難搬送する等の任務を担っています。

DPATは、精神科医師、看護師、精神保健福祉士（ケースワーカー）、臨床心理士、事務員などの職種により、1チーム数名にて構成されます。同県他病院のDPATチームと連携を取りながら、リレー方式で、同一被災地を支援していきます。

本年度から秋田県においてもDPATが体制整備され、4病院がDPAT指定病院として、県からの指定を受けております。当院もDPAT指定病院として指定を受けており、目下活動準備を進めているところで

す。

自然災害や犯罪事件、航空機・列車事故等の集団災害が発生した場合には、被災地域の精神保健医療機能が一時的に低下することが考えられます。さらに災害ストレスにより、新たにPTSDや他の精神的問題が生じる等、精神保健医療へのニーズが拡大することが考えられます。

当院に所属する7名のDPAT隊員たちも、平時から研修訓練等に積極的に参加し研鑽を積み、微力ではありますが、有事の際には被災地の方々のお役に立てるよう努力してまいりたいと考えております。



# 秋田緑ヶ丘病院における防災の取り組みについて



秋田緑ヶ丘病院では、現在、年間目標の一つに「防災対策」を掲げ、大規模災害時における体制の強化、見直しを行っています。毎月一度防災対策委員会を行い、災害発生時の対応や必要物品の備蓄について検討を行っている他、ファーストミッションボックス®を用いた大規模災害を想定した防災訓練も行いました。そして、そのような実践や検証を重ねながら、今年の4月に大規模災害時対応マニュアルを刷新した形で防災マニュアルの改訂版を作成しました。



できるよう、引き続き防災マニュアルの充実を図り、より地域に必要とされる病院を目指し防災の取り組みを行っていきます。

※ファーストミッションボックス®とは、災害発生時、活動拠点となる災害対策本部に早く集まった人に渡す「やるべき任務」を記載した指示カードなど、最低限必要となる事務用品を準備した箱です。このツールを用いることで、発災初動時にやるべきことが整理され、最優先でやらなくてはいけない行動が明確化されます。

## 東1病棟新ユニット完成について



東1病棟  
師長  
井島 寛征

過去、急性期治療病棟の入院患者さんは統合失調症などの急性期症状を呈する患者さんが中心でしたが、現在では、統合失調症の患者さんや、認知症患者さん、また、ストレス関連疾患の患者さんなど様々な状態の患者さんが混在し、入院治療を受けています。そのため、様々な状態の患者さんに適切な治療を提供するため、急性期病棟内の一部をユニット化し、静かな環境で、ゆっくりと治療に専念していただける治療環境を整備いたしました。8月1日から高齢患者さんを中心に、現在5床で本格的に稼働しております。

5月の上旬から約3ヶ月と長期の改修工事に伴い、入院患者さんをはじめ、ご家族、病院スタッフの皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けいたしました。長期の改修工事だったことで病棟スタッフ全員が工事期間中、日々の日常業務を行いながら、患者さんの安全、安楽を第一に考え、無断離院や工事に伴う事故を起こさないように毎日を張りながら頑張ってくれました。またその工程によって業務内容の見直しを行った

り、巡回を強化するなど小さな努力の積み重ねのおかげで無事に大きな事故もなく、工程どおりユニット完成に至りました。この期間に関わっていたいただいたすべてのみなさまにこの場を借り感謝いたします。

今後は軽度認知症患者さんのレスパイト入院であったり、急性期症状の患者さんの環境調整的な活用など多種多様にこの新ユニットを活用し、患者さんにとって快適な入院生活が送れるように運用していきたいと考えております。



ナースステーションも広くなりました

新設したダイニング





# 秋田市認知症初期集中支援チーム



平成29年10月1日より、秋田市からの委託を受け、当院にて秋田市認知症初期集中支援チーム（以下：支援チーム）の業務を開始しております。

これまでの医療は、認知症の方に危機が生じてからの事後的な対応が多く、ケアの現場においても継続的なアセスメントが不十分となっておりました。そこで、認知症が疑われる方やご家族に早期に関わり、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とし、支援チームが創設されました。

「初期」という言葉の意味は、「認知症を発症してからの早期段階」という意味だけではなく、「関わりの初期」という意味もあるため、支援チームの対象者は、医療サービスおよび介護サービスに結びついていない方や中断している方、または認知症による行動・心理症状が顕著である方となります。具体的な活動内容としては、対象者の自宅を訪問し、生活状況に応じた助言やご家族への心理的サポートを行った上で、専門医療機関への受診や介護サービス利用に関しての支援をすすめていくことです。訪問後には、チーム員医師や地域包括支援センター、行政職員、関係機関を召集したチーム員会議を開催し、支援の方針を検討します。そして、医療サービスおよび介護サービスの安定的な支援に移行するまでの概ね最長6ヶ月間に集中した形で、認知症の症状に沿った対応や助言、サービスの調整等を行います。



私たちが訪問いたします

当院では、認知症疾患医療センターのスタッフが中心となり支援チームを稼働させているため、医療機関への受診が必要と思われる対象者への動機付けや、かかりつけ医との連携について、特に機能を発揮できると考えております。またご家族に対しては、決して一人で悩まないようにということをお伝えし、困ったときに安心してご相談いただけるような関係性の構築を図っていきます。認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、包括的・集中的な支援を通じ、地域における認知症支援体制の発展に貢献したいと考えております。本事業についてのご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。



秋田緑ヶ丘病院秋田県認知症疾患医療センタースタッフと秋田市認知症初期集中支援チーム員が常駐する事務所が完成し、平成30年4月より同事務所にて業務を行っております。

事務所内に面接室や心理検査室を設けたことにより、センターを受診される患者さんやご家族さんのご案内も、よりスムーズに行うことが可能となっております。

この事務所を活動拠点とし、認知症患者さんに対する支援業務の更なる充実を図ってまいります。今後どうぞよろしくお願い致します。



面接室

**秋田緑ヶ丘病院秋田県認知症疾患医療センター  
新事務所紹介**

## 外来診療のご案内

心療内科・精神科・内科・麻酔科

### ◆初診の場合

- 〈受付窓口〉 受付・総合案内へ  
 〈外来診療受付時間〉 平日・土曜日問わず受付は午前 11:30 までにご利用いたします。  
 〈診療時間〉 平日（土曜日は午前中のみ）  
 9:00～12:00 / 14:00～17:00  
 土曜日の診療は「第2・第4」のみ行っています。  
 但し、救急の場合はその限りではありません。  
 （午後には予約制による診療を行っています。）  
 ※内科は土曜日休診、麻酔科は平日午後・土曜日休診。  
 〈必要なもの〉 保険証  
 ※受給証をお持ちの方は併せて受給者証を提示してください。

### ◆院外処方について

当院では外来の院外処方を行っています。ご不明な点につきましては、外来受付までお問い合わせ下さい。

### ◆2回目以降受診（再診）の場合は

- 〈受付窓口〉 受付・総合案内へ  
 〈必要なもの〉 診察券と保険証

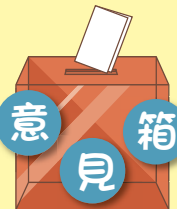
### ◆専門外来について

「うつ・ストレス外来」「女性専門外来」「もの忘れ外来」「睡眠障害がい外来」「PTSD外来」こちらの外来診療については完全予約制となりますので受付までお電話下さい。

毎月1回は保険証の確認をさせていただきますのでご提示願います。

### クレジットカードでの支払いが可能です

サービス向上の1つとして、診療費等の支払いについては、JCB、AMERICAN EXPRESS、VISA 及び MasterCard 等のクレジットカードがご利用できます。クレジットカードが利用できることにより、支払方法の選択肢が広がるほか、現金の持ち合わせがなくても安心して受診できるようになります。



## Q&A



Q（オリーブの）浴室の使用時間が1時間なので、浴室内で時間が分かるように防水時計を設置してほしい。

A ご意見有難うございます。

浴室内に防水時計を設置する予定です。

これからも、皆様のご意見を取り入れ、より良い療養環境を目指して参ります。

職員や病棟に関するご意見につきましては、各担当責任者が個別に対応しております。病院運営の参考にさせていただきますので、今後ともご協力宜しくお願いいたします。

## こんにちは。新人です！

4月より東1病棟で看護師として勤務し、約半年が過ぎました。社会人を経験し、子育てをしながら看護学校へ通い、看護師となりました。入職当初は分からないことが多く、初めての経験ばかりで戸惑うこともあり、不安と緊張の毎日でしたが、師長さんをはじめとする病棟スタッフの皆さんからのご指導やアドバイスを受け、日々業務に励んでおります。

まだ、看護師としての経験も浅く、知識や技術も未熟ですが、1日でも早く病棟の戦力となり、より良い看護が提供できるよう日々努力していきたいと思っております。



東1病棟  
阿部 奏子

## ロンドンバス夜間営業のお知らせ

クローバー就労継続支援事業所では、喫茶「BusCafe」を営業しております。金曜日・土曜日は17時～21時でディナー営業がございます。飲み放題プランもご用意しており、御食事会や飲み会など様々な場面でご利用できます。お子様連れのご家族はもちろんのこと、友人・職場の皆様でもご来店下さい。皆様のご来店、心よりお待ちしております。



### 編集後記

ここ最近、日中も過ごしやすい気温になってきて、朝晩は肌寒いくらいになってきましたが、今年の夏を振り返ると、命の危険を伴う猛暑が続いたり、変則的な道をたどる台風が発生したりと、私たちの経験則だけでは測ることができない自然の猛威を感じました。自然災害はいつ起こるか分かりません。自身の防災意識を高めながら、何かあった際に冷静に対応できるよう、普段から備えたいと思います。

今年の4月から総務課に配属して、約6ヶ月が経ちました。現在は文書処理、車両関係をメインに担当しております。新しい環境の中で、日々流動的に仕事を行うことに慣れず、不安な部分もありましたが先輩方にご指導をいただき、学ばせて頂きながら日々業務に励んでいます。業務を通じ、各部署との連携をしっかりとしていきたいです。学ぶことができる環境に感謝の気持ちを持って1日でも早く仕事に慣れ、覚えられるように努力していきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。



事務部 総務課員  
伊藤 峻哉

